

# 【キク科】 ひまわり

は種量： 1～1.5kg 施肥量：N 4～6kg P 8～10kg K 0～10kg  
(すべて10a当たり)

緑肥名	栽培区分	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月					
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
ひまわり	後作緑肥						○							☆									☆		
	前作または 休閑緑肥						○							☆											

○：は種期 ☆：すき込み期

## (1) 作物の特徴と作付効果

- ・酸性土壌でも生育し、耐湿性がある。
- ・吸肥力が強く、クリーニングクロップ※2としての効果がある。
- ・菌根菌がリン酸の有効利用を助けるため、地力が増強する。
- ・土壌被覆速度が速く、雑草抑制効果がある。
- ・黄色い大きな花が景観美化に有効である。



写真3 ひまわり

## (2) 栽培上のポイント！

- ・は種後にロータリやディスクハローで表土を浅く攪はんすると発芽率が高まる。
- ・後作には、菌根菌と共生関係の強いスイートコーンや小麦、たまねぎが適する。
- ・霜害・凍害を受けやすいため、後作では早生品種を8月中旬までには種する。
- ・開花後1～2週間のうちにロータリーですき込み、次年度の野良ばえを防ぐ。

## (3) こんな時は注意！

- ・半身萎凋病の寄主作物であることから、発生ほ場では栽培を避けるか、抵抗性を有するひまわりを利用する。
- ・ひまわりに菌核病が発生した場合、後作で豆類やばれいしょなどの栽培は避ける。

# 【イネ科】ソルガム

は種量：5kg 施肥量：N 8~10kg P 8~12kg K 0~10kg

(すべて10a当たり)

緑肥名	栽培区分	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
ソルガム	前作緑肥						○				○											
	ハウス緑肥						○															

○—○：は種期 ☆：すき込み期

## (1) 作物の特徴と作付効果

- 有機物補給の効果が大きい。
- とうもろこしに比べ、耐乾性は著しく強く、耐湿性も強い。
- ドリフトガード作物※3、塩類集積したハウスのクリーニングクロップ※2として利用できる。



写真4 ソルガム(雪印種苗原図)

## (2) 栽培上のポイント！

- 高温条件で生産量が極めて多い（栽培適温は15℃以上）。
- 乾物重が大きくなる場合は、C/N比※4が著しく高まるので上記表を目安に適期にすき込む。
- 腐熟期間を十分設ける。
- 後作物には小麦、豆类、ねぎ類、スイカ、メロンが適する。
- 小麦の前作に作付する場合は、8月上旬までにすき込む。

## (3) 病害虫に関するポイント！

- トマトやきゅうりの大敵であるサツマイモネコブセンチュウの対抗植物となる品種がある。

## (4) こんな時は注意！

- てんさい、ばれいしょは品質低下を招く恐れがあるので、すき込み1年目の作付を避け、2年目以降とする。
- ソルガムすき込み跡地でのだいこん栽培は岐根の多発を招きやすいので、2年目以降の作付とする。

短期利用のマメ科緑肥として極多収！

# 【マメ科】ヘアリーベッチ

は種量：3～5kg 施肥量：N 2～5kg P 5kg K 0～10kg

(すべて10a当たり)

緑肥名	栽培区分	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
ヘアリーベッチ	後作緑肥											○	○							☆	☆	☆
	前作または 休閒緑肥	○									☆											
			○	○								☆	☆	☆	☆	☆						

○—○：は種期 ☆：すき込み期

## (1) 作物の特徴と作付効果

- ・短期利用のマメ科緑肥として極多収である。
- ・根粒菌が空中窒素を固定し、かつ菌根菌がリン酸の有効利用を助けるため、地力が増強する。
- ・土壌の被覆が早く、雑草を抑制する。
- ・窒素含量を含め、肥料成分がえん麦以上に豊富である。



写真5 ヘアリーベッチ(雪印種苗原図)

## (2) 栽培上のポイント！

- ・発芽、初期生育を安定させるために、必ず覆土、鎮圧を行う。
- ・早まきほど多収で8月下旬は種では低収になる。
- ・C/N比\*4が低く分解が早いため、減肥が必要。
- ・多収を狙う場合、えん麦野生種またはえん麦との混播を行う。

## (3) 病害虫に関するポイント！

- ・ばれいしょの前作として栽培する場合は、そうか病の発生を軽減させる効果がある。

## (4) こんな時は注意！

- ・窒素やカリの過剰により品質低下する後作物では、これらの養分を必ず減肥する



写真6 ヘアリーベッチの根張り

# 【マメ科】アカクローバ

は種量：3kg

施肥量：N 0~2kg P 0~5kg K 0kg

(すべて10a当たり)

緑肥名	栽培区分	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
アカクローバ	休閒緑肥 (秋まき小麦前作)			○											☆								
	休閒緑肥			○																			☆
	間作緑肥	○		○																			☆

○—○：は種期 ☆：すき込み期

## (1) 作物の特徴と作付効果

- 多年生である。
- 根粒菌が空中窒素を固定し、かつ菌根菌がリン酸の有効利用を助けるため、地力が増強する。



写真7 アカクローバ(雪印種苗原図)

## (2) 栽培上のポイント！

- 秋まき小麦の間作緑肥の場合は、小麦の畦幅を25cm以上と広めにし、できるだけ早くは種する。小麦の除草剤は遅めとする。
- 小麦の刈取りは高めとし、麦稈がクローバを被覆しないようにする。
- プラウ耕によるすき込みを十分に行い、雑草化を防ぐ。

## (3) 病害虫に関するポイント！

- ダイズシストセンチュウ密度低下に有効である。シスト内卵の孵化のピークは6月頃と考えられ、この時期までに根の伸長をできるだけ高めることが重要である。

## (4) こんな時は注意！

- ダイズシストセンチュウ被害で減収しているほ場では、大豆や小豆の連作を行わず、前作または休閒緑肥としてダイズシストセンチュウ対抗植物を導入し、密度低減に努める。